

大乘戒並びに小乗戒の事。

凡そ二百五十戒を受ければ大僧の名を得るなり。受戒は辺国は五人、中国は十人なり。十人とは三師七証なり。三師とは和尚と阿闍梨あじゃりと教授となり。十人共に五徳を具す。二百五十戒を別解脱戒と云ひ、亦は具足戒とも云ふなり。小乗の五戒を受くるを優婆塞うばそく・優婆夷うばいと云ふなり。八斎戒も亦是くの如し。五戒を受くるに必ず二師有り。二師とは和尚と阿闍梨となり。八斎戒も亦是くの如し。小乗戒は経巻有りと雖も師資相承無き者には戒を授けざるなり。菩薩の前にしても仏の前に非ざれば戒を授けざるなり。

大乘戒の事。師は必ず五徳を具する僧なり。常には一師二師なり。一師とは名目梵網經に出づ。二師とは和尚と阿闍梨となり。

具つがさに十重禁戒せんかいを受くるを大僧と名づくるなり。亦具足戒とも云ふなり。一戒二戒を受くるをば具足戒とは云はざるなり。日本国には伝教大師より始めて一向大乘戒を立つるなり。伝教已前には通受戒なり。通受戒とは、小乗戒を受けては威儀を正し、大乘戒を受けては成仏ごを期するなり。大小乗の戒を兼ね受くるを通受戒と云ふ。日本国には小乗の別解脱戒の弘まることは鑑真和尚がんじんの時より始まり。鑑真已前は沙弥戒しゃみなり。千里の内に五徳を具せし僧無くんば自誓受戒す。自誓受戒とは道場に座して一日二日乃至一年二年罪障ざんげを懺悔ぶげんもんじゅす。普賢文殊等来たりて告げて、毘尼薩毘尼薩びにさびにさと云はん時自誓受戒すべし。即ち大僧と名づく。毘尼薩毘尼薩とは滅罪滅罪と云ふ事なり。若し五徳を具する僧有れば、好相を見ざれども受戒するなり。十重禁戒を破る者も懺悔これすれば之を授く。四十八輕きょうも亦復是くの如し。五逆七逆は論なり。經文分明ならず、授けざるは道理なり。仏は則ち盧舎那仏・二十余の菩薩・羅什三蔵・南岳・天台乃至道邃・伝教大師等だるまなり。達磨・不空は天竺より此の戒を受けたり。已上常人の義なり。

日蓮云はく、彼は梵網ぼんもうの意か。伝教大師の顕戒論に云はく「大乘戒に二有り。一には梵網經の大乗。二には普賢經の大乗なり。普賢經は一向自誓受戒なり」と。常人は梵網千里の外の自誓受戒と普賢經の自誓受戒これと之同じと思へるなり。日蓮云はく、水火の相違ゆえんなり。所以は何ん。伝教大師の顕戒論に二義有り。一には梵網經の十重戒、四十八輕戒の大僧戒。二には普賢經の大僧戒なり。梵網經の十重禁・四十八輕戒を以て眷屬戒けんぞくと為すなり。法華經・普賢經の戒を以て大王戒と為すなり。小乗の二百五十戒等は民戒、梵網經の戒は臣戒、法華經普賢經の戒は大王戒なり云云。普賢經の戒師は、千里の外にも千里の内にも、五徳有るも五徳無きも、等覺已下の生身しょうじんの四依の菩薩等を以て全く伝受戒師に用ふべからず。受戒には必ず三師一証一伴なり。已上五人なり。三師とは一は

生身の和尚は^{りょうぜん}靈山淨土の釈迦牟尼如来なり。響きの音に応ずるが如く、清水に月の移るが如く、法華經の戒を自誓受戒する時必ず来たり給ふなり。然れば則ち何ぞ生身の釈迦牟尼如来を捨て、更に等覺の^{がんぼん みだん}元品未断の四依等を用ゐんや。若し円教の四依有らば伝戒の^{これ}為に之を請ずべし、伝受戒の^{これ}為には之を用ふべからず。

疑って云はく、小乗の戒、梵網の戒に何ぞ生身の如来来たらざるや。答へて云はく、小乗の^{け しんめつち}釈迦は灰身滅智の仏なり、生身既に破れたり。譬へば^{びょう}水瓶に清水を入れて他の全瓶に移すが如し、本瓶は既に破れぬ。小乗の^{かしょう}釈迦は五分法身の水を以て迦葉・阿難等の全瓶に移して、^{けだん}仏既に灰断に入り了んぬ。乃至^{および}仏・四果・初果・四善根・三賢及以^{はくじ}博地の凡夫、二千二百余年の間、^{びょう}次の瓶に五分法身の水を移せば前瓶は即ち^{はえ}破壊す。是くの如く^{てんでん}展転するの程に、凡夫の土器の瓶に此の五分法身の水を移せば、未だ他瓶に移さざるの前に五分法身の水漏失す。更に何れの水を以てか他の瓶に移さんや。小乗の戒体も亦復^{またまた}是くの如し。正像既に^{じょくらん}尽きぬ。末法の^{うみょうむじつ}濁乱には有名無実なり。二百五十戒の僧等は、但土器の^{びょう}瓶のみ有りて全く五分法身の水無きなり。是くの如き僧等は、形は^{しゃもん}沙門に似れども戒体無きが故に^{これ}天之を護らず。唯悪行のみを好みて愚人を^{おうわく}誑惑するなり。

梵網大乘の戒は、譬へば^{びょう}金銀の瓶に仏性法身の清水を入れて亦金銀の瓶に移すが如し。終には^{はえ}破壊すべしと^{いえど}雖も瓦器土器に勝れて其の用強し。故に小乗の二百五十戒の僧の持戒よりも、梵網大乘の破戒の僧は^{えこ}国の依怙と為る。然りと雖も此の戒も終に漏失すべきものなり。

普賢經の戒は、正像末の三時に^{わた}亘って生身の釈迦如来を以て戒師と為す。故に等覺已下の聖凡の師を用ゐざるなり。小乗の劣応身、通教の勝応身、別教の台上的^{るしやな}盧遮那、爾前の円教の^{こくういざ}虚空為座の^{びるしやな}毘盧遮那仏、猶以て之を用ゐず。何に況んや其の已下の菩薩・声聞・凡夫等の師をや。但法華迹門の^{かいえ}四教開会の^{これ}釈迦如来、之を用ゐて和尚と為すなり。二は金色世界の^{しやう}文殊師利菩薩、之を^{あじやり}請じて阿闍梨と為す。四味三教並びに爾前の円教の文殊には非ず。此は法華迹門の^{とし たてんぐう}文殊なり。三は都史多天宮の^{みろくじそん}弥勒慈尊、之を^{あしゆしゃ}請じて教授と為す。小乗未断惑の弥勒、乃至通・別・円等の弥勒には非ず。亦無^{むじやく}著菩薩、阿輸舍^{あしゆしゃ}国に^{らいげ}来下して授けし所の大乘師の弥勒にも非ず。此は迹門方便品を授くる所の弥勒なり。已上三師なり。一証とは十方の諸仏なり。此は則ち小乗の七証に異なるなり。一伴とは同伴なり。同伴とは同じき受戒の者なり。法華の序品に列なる所の二乗・菩薩・二界八番の衆なり。今の戒は、小乗の二百五十戒等並びに梵網の十重禁・四十八輕戒・華嚴の十無尽戒・^{ようらく}瓔珞の十戒等を捨て、未^{おわ}顕真実と定め畢つて、方便品に入って持つ所の五戒・八戒・十善戒・二百五十戒・五百戒乃至十重禁戒等なり。經に「是名持戒」とは則

ち此の意なり。迹門の戒は爾前大小の諸戒には勝ると雖も而も本門戒には及ばざるなり。

十重禁とは、一には不殺生戒、二には不^ふ偷^{ちゅうとう}盜戒、三には不^{じやいん}邪淫戒、四には不妄語戒、五には不^{こしゆ}酤酒戒、六には不説四衆過罪戒、七には不^ふ自^じ讚^{さん}毀^{きた}他戒、八には不^{けんどん}慳貪戒、九には不^{しんに}瞋恚戒、十には不謗三宝戒なり。

第一に不殺生戒とは、爾前の諸經の心は仏は不殺生戒を持つと説けり。然りと雖も法華經の心は爾前の仏は殺生第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不殺生戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不殺生戒を持たず。二乘・闍提・無性有情等の九界の衆生を殺して成仏せしめず。能化の仏未だ殺生罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の經に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の殺生罪を捨て、法華壽量品の久遠の不殺生戒を持つや不^{いな}や、持つと^三返。第二に不^ふ偷^{ちゅうとう}盜戒とは、爾前の諸經の心は仏は不偷盜戒を持つと説けり。然りと雖も法華の心は爾前の仏は偷盜第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不偷盜戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不偷盜戒を持たず。二乘・闍提等の九界の衆生の仏性の玉を盗んで成仏せしめず。能化の仏未だ偷盜罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の經に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の偷盜罪を捨て、法華壽量品の久遠の不偷盜戒を持つや不^{いな}や、持つと^三返。第三に不^{じやいん}邪淫戒とは、爾前の諸經の心は仏は不邪淫戒を持つと説けり。然りと雖も法華の心は爾前の仏は邪淫第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不邪淫戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不邪淫戒を持たず。二乘・闍提等の九界の衆生の仏性の智水を犯して成仏せしめず。能化の仏未だ邪淫罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の經に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の邪淫罪を捨て、法華壽量品の久遠の不邪淫戒を持つや不^{いな}や、持つと^三返。第四に不妄語戒とは、爾前の諸經の心は仏は不妄語戒を持つと説けり。然りと雖も法華の心は爾前の仏は妄語第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不妄語戒を持つに似たりと雖も未だ出世の不妄語戒を持たず。二乘・闍提等の九界の衆生の色心を破りて成仏せしめず。能化の仏未だ妄語罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の經に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の妄語罪を捨て、法華壽量品の久遠の不妄語戒を持つや不^{いな}や、持つと^三返。第五に不^ふ酤^{こしゆ}酒戒とは、爾前の諸經の意は仏は不酤酒戒を持つと説けり。然りと雖も法華經の心は爾前の仏は酤酒第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不酤酒戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不酤酒戒を持たず。二乘・闍提等の九界の衆生をして無^む明^{みょう}の酒を飲まして成仏せしめず。能化の仏未だ酤酒罪を免れず、

何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の酤酒罪を捨て、法華寿量品の久遠の不酤酒戒を持つや不や、持つと^三返。第六に不説四衆過罪戒とは、爾前の諸経の心は仏は不説過罪戒を持つと説けり。然りと雖も法華経の心は爾前の仏は説過罪第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不説過罪戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不説過罪戒を持たず。二乗・闍提等の九界の衆生の過罪を説きて成仏せしめず。能化の仏未だ説過罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の説過罪を捨て、法華寿量品の久遠の不説過罪戒を持つや不や、持つと^三返。第七に不自讃毀他戒とは、爾前の諸経の心は仏は不自讃毀他戒を持つと説けり。然りと雖も法華の意は、爾前の仏は自讃毀他第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の不自讃毀他戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の不自讃毀他戒を持たず。二乗・闍提等の九界の衆生を毀りて成仏せしめず。能化の仏未だ自讃毀他罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の自讃毀他罪を捨て、法華寿量品の久遠の不自讃毀他戒を持つや不や、持つと^三返。第八に不慳貪戒とは、爾前の諸経の心は仏は不慳貪戒を持つと説けり。然りと雖も法華の心は爾前の仏は慳貪第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の^{けんどん}不慳貪戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の^{けんどん}不慳貪戒を持たず。二乗・闍提等の九界の衆生の仏性の玉を^{おし}慳みて成仏せしめず。能化の仏未だ慳貪罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の慳貪罪を捨て、法華寿量品の久遠の^{おし}不慳貪戒を持つや不や、持つと^三返。第九に^{ふしんに}不瞋恚戒とは、爾前の諸経の心は仏は^{ふしんに}不瞋恚戒を持つと説けり。然りと雖も法華の意は、爾前の仏は^{ふしんに}瞋恚第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の^{ふしんに}不瞋恚戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の^{ふしんに}不瞋恚戒を持たず。二乗・闍提等の九界の衆生を^{いか}瞋りて成仏せしめず。能化の仏未だ瞋恚罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の瞋恚罪を捨て、法華寿量品の久遠の^{ふしんに}不瞋恚戒を持つや不や、持つと^三返。第十に不謗三宝戒とは、爾前の諸経の心は仏は^{ふしんに}不謗三宝戒を持つと説けり。然りと雖も法華の意は、爾前の仏は^{ふしんに}謗三宝第一なり。所以は何。爾前の仏は一往世間の^{ふしんに}不謗三宝戒を持つに似たりと雖も、未だ出世の^{ふしんに}不謗三宝戒を持たず。二乗・闍提等の九界の衆生の三宝を^{そし}謗りて成仏せしめず。能化の仏未だ謗三宝罪を免れず、何に況んや所化の弟子をや。然るを今の経に悉く成仏せしむ云云。今身より仏身に至るまで、爾前の謗三宝罪を捨て、法華寿量品の久遠の^{ふしんに}不謗三宝戒を持つや不や、持つと^三返。